# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

11-233115

(43) Date of publication of application: 27.08.1999

(51)Int.CI.

HO1M 4/62 H01M 4/02

H01M 10/40

(21)Application number: 10-037809

(71)Applicant: FUJI ELELCTROCHEM CO LTD

(22)Date of filing: 19.02.1998

(72)Inventor: SAGISAKA HIROTO

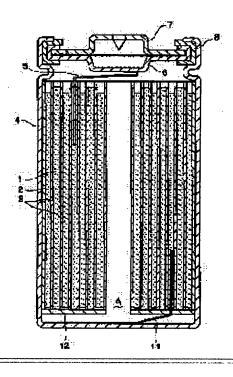
**NISHINO NAOYA** NAGURA HIDEAKI

### (54) NONAQUEOUS ELECTROLYTE BATTERY

## (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To suppress rising of a battery temperature in the case where a nonaqueous electrolyte battery is crushed by compression to provide a highly safe nonaqueous electrolyte battery. SOLUTION: This battery is composed by winding via a separator 3 a positive pole plate 1 applied with a positive electrode depolarizing mixture using an oxide containing Li as a positive electrode active material, and a negative electrode sheet 2 comprising a carbon material, on the surface of a current collector. Thickness of the positive electrode depolarizing mixture is made to be not less

than 300 i m and not more than 400 i m, and apparent density of the mixture is made to be 2.6-3.2 g/cm3.



#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

の彩音不同特許力(こと)

(10) 公開特許公報(A)

(11)特許山道公保督号

特開平11-233115

日75日8 10337个年13基件 日開会ほお

(5D) ntCl.5 (2) ז יו H0114 1,42 H01M 4/62 4/02 1/022 C: 10/40 10/46

答金耐水 大竹衣 常求項の数 1 ロル (全 n 点)

(31) 田頂藤寺

**作数4**-171-978(8)

(71) 日益人 (60)を6721

官主電気化学株式会社

(22)円周日

平成16年(1998) 2 月19日

水泉等階区新程 5 丁门38 年11 号

(72) 発病者 為板 市人

東京が西内が何5」自然時11号 第五世気

化学来关介性内

(72) 學序為 医牙 (4) 的 東京都國区對特5(日98等11号 拿工者表

化学未太会补内

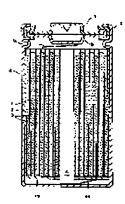
化学朱式会包4 (74)代理人 升理十二化(42章 55)2至)

(4) [定則の引称] 非水電解後電池

# 60【要約】

【課題】非水電解液電池が圧縮されて潰された場合に おける電池温度の上昇を抑え、安全性の高い非水電解液 電池を提供することにある。

【解決手段】 Liを含む酸化物を正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に塗布した正極板1と炭素材料か らなる負極シート2とを、セパレータ3を介して巻回し た非水電解夜二次電池において、前記正極合剤の厚みを 300 μm以上400 μm以下とし、且つ、前記正極合 剤の見かけの密度を2.6~3.2g/cm3とする。



#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 Liを含む酸化物を正極活物質とする正 極合剤を集電体の表面に塗布してなる正極板と炭素材料 からなる負極シートとをセパレータを介して巻回した非 水電解夜二次電池において、

前記正極合剤の厚みが300μm以上400μm以下で あり、前記正極合剤の見かけの密度が2.6~3.2g /cm3であることを特徴とする非水電解夜二次電池。

# 【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、Liを含む酸化物 を正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に塗布した 正極と炭素材料からなる負極とをセパレータを介して巻 回した非水電解夜二次電池、特にその正極板の改良に関 するものである。

[0002]

【従来の技術】現在、軽量で高電圧で使用できる非水電 解液二次電池としてリチウムイオン二次電池が商品化され、ノート型パソコンや携帯電話の電源として使われて いる

【0003】このリチウムイオン二次電池は、Liを含 む酸化物を正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に **塗布した正極板と炭素材料からなる負極シートとを、セ** パレータを介して巻回し、エチレンカーボネート,ジエ チルカーボネートなどの有機容謀に電解質として例えば LiPF6を加えたものを電解液として用いたもので、 電池内部でリチウムは常にイオンの状態で存在する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前記リチウ ムイオン二次電池は高容量であるため誤使用や、電池自 体に負荷がかかった場合の危険性は高く、安全性を確保 するために様々な工夫がなされているが、正極合剤を集 電体の表面に塗布した正極と炭素材料からなる負極とを セパレータを介して巻回した非水電解液二次電池におい ては、電池に外的な力がかかるなどして電池が圧縮され て潰された場合に、電池内部において前記正極と負極と の間のセパレータが破れて内部ショートが起こると、電 池温度が急激に上昇して、電池の発火や破裂を招く虞が あるという問題があった。

【0005】本発明は上記の問題点に鑑みてなされたも のであり、その目的は、前記非水電解夜電池が圧縮され た場合における電池温度の上昇を抑えることができる安 全性の高い非水電解夜電池を提供することにある。

[0006]

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記の目 的を達成するために鋭意検討した結果、Liを含む酸化 物を正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に塗布し た正極板と炭素材料からなる負極シートとを、セパレー タを介して巻回した非水電解夜二次電池において、その 正極を改良することによって電池の安全性の向上が図れ ることを見いだした。

【0007】即ち、正極板として、A1集電体に正極合 剤をA1箔の両面に150μmづつ塗布したものを用 い、この正極板と負極シートとをセパレータを介在し渦 たところ、電池を圧縮した場合の電池表面温度を低くす たところ、電池を圧縮した場合の電池表面加速を含くすることができた。同様にして、正極板の正極合剤の厚みを変えてみたところ、正極合剤の厚みが300μm以上400μm以下である場合に、電池を潰したときの電池表面温度の上昇が低く抑えられ、電池の安全性が向上す

:

:

ることを見い出した。 【0008】一方、リチウム二次電池の大容量化という 観点から試験を繰り返したところ、正極合剤の見からかった。 度が2.6~3.2g/cm3の範囲、即52.6g/ cm3以上3.2g/cm3以下の範囲である場合に 大放電時の電池の容量特性が向上するという結論を得

【0009】つまり、本発明では、Liを含む酸化物を 正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に塗布した正 極板と炭素材料からなる負極シートとを、セパレータを 介して巻回した非水電解液二次電池において、前記正極 合剤の厚みを300μm以上400μm以下とし、且 つ、前記正極合剤の見かけの密度を2.6~3.2g/ cm3とするものである。

[0010]

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態について

実施例を中心に説明する。

【0011】 [電池の組立] 図1は、本発明による単1型巻回式非水電解液二次電池の断面図である。図1において、1は正極板であり、正極活物質のLiCoO 2と、導電材のカーボン粉末と結着剤のポリテトラフル オロエチレン(PTFE)の水性ディスパージョンを重 量比85:10:5の割合で混合レペースト状に混練したものを、厚さ20μmのアルミニウム箔からなる集電 体の両面に、同じ量だけ正極合剤として塗布した後、乾 燥、圧延し、所定の大きさに切断して帯状正極シートを 作成した。このシートの長さ方向に対して垂直に合剤を 掻き取り、チタン製正極リード板を集電体上にスポット 溶接して取り付けた。

【0012】活物質のLiCoO2は、酸化コバルト (CoO)と炭酸リチウム(Li2CO3)をモル比で 2:1に混合し、空気中で900℃で、9時間加熱したものを用いた。また上記の材料の混合比のうちPTFEの水性ディスパージョンの割合はそのうちの固形分の割 合である。この時の正極活物質の重量は45gである。 【0013】2は炭素材料からなる負極シートで、黒鉛材料として市販の天然黒鉛と結着剤のPTFEの水性デ ィスパージョンを重量比で100:5の割合で混練した ものを、ニッケル製エキスパンドメタルに圧入し、乾

爆、切断し、帯状負極シートを作成した。このシートの一部をシートの長手方向に対して垂直に合剤を掻き取り、ニッケル製負極リードを集電体上にスポット溶接して取り付けた。なお、PTFEの比率は上記と同様固形分の割合である。負極中の炭素質粉末の重量は20gである。

の014】これら正極板1と負極シート2を、ポリプロピレン製の多孔質フィルムセパレータ3を介して渦巻状に巻回し、外装缶4内に挿入する。挿入後、チタン製リード5をステンレス製封口板6にスポット溶接する。7はアルミニウム製の正極カップ兼正極端子で、予め封口板6にスポット溶接してある。また負極リード板11は、負極端子を兼ねた外装缶4の円形底面の中心位置に、スポット溶接してある。8はポリプロピレン製の絶縁ガスケットである。10は電池に異常が起きて、電池内圧が上昇した場合に内部ガスが外部へ放出されるように取り付けてある安全弁である。12はポリプロピレン製絶縁底板で、巻回時に生じる空間Aと同面積になるよ

うに穴が開いている。 【0015】以上の操作の後、エチレンカーボネート、ジェチルカーボネートがそれぞれ1:1の割合の有機容媒に電解質としてLiPF6(1mol/1)加えたものを電解夜とし、8.5g注入し封口する。完成電池のサイズは単一型(φ34mm×60mm)である。 【0016】表1に実施例及び比較例とした試作電池の正極板の合剤厚み(μm)と見掛け密度(g/cm3)

の一覧を示す。 【0017】

【表1】 \*1 943人CAKH-A

4 4	Ω কাকে জ	具かて筑武
		(#/=n2)
<b>****</b>	236	2. 5
_尖苏脚 /	600	1. 5
元払何 コ	5 . 2	y
xDA /	366	3
<b>未放出 6</b>	3 4 6	1 3. Z
無行句 9	2 € 3	3. }
LPH!	263	2. 1
E RABE	3 & C	2.4
化合名 に	4 € €	2. 4
<b>肝育吗</b> 、	566	2.4
<b>注题时</b> 3	2 4 C	E. 6
胜电图 8	256	Z. 6
比如何 7	P 7 ft	<u>.</u>
化电路 田	4 3 3	- ;
D. 路到 D	5 C 6	0.2
D. EE M. L.	488	3. 2
并在44.1	199	8. 4
环疫剂 . 5	2 B 3	≱. ∸
是收销"3	433	8.4
対映制・	413	<u> </u>

【0018】[電池試験方法] 表1に示した各仕様電池を、1.5A、1.4V、5時間の条件で定電流電圧充電を行い、電池を直径の1/2になるまで圧縮し、その時の電池表面温度を測定した。

:

【0019】また、表1に示した各仕様電池を、1.5A、1.4V、5時間の条件で定電流電圧充電を行い、0.2Cの電流で放電して得られた電池容量(通常のカタログ記載容量)と、それより大きい2Cで放電した電池容量との比をとり、電池の電流特性を比較した。(1Cの電流値は5Aとした。)

Cの電流値は5Aとした。) 上記圧縮域験においては、電池表面温度が手で触ること のできる60℃以下となるもので、且つ、電流特性では 2Cの放電容量が0・2Cの放電容量の80%以上であ るものを実施例とした。

【0020】【試験結果】表1に示した各仕様電池の試験結果を表2に示す。また、表3に、それらの試作電池についての圧縮時の表面温度と放電容量特性の試験結果を、正極板の合剤厚みと見掛け密度との相関として示す。表3中、Co(mg/cm2)は正極板の単位面積当たりのコバルト量(mg/cm2)である。

【0021】 【表2】

安生 建氯化基一氮

4 12	単心計画組成 12円が呈ノコ タモ		
L	(%)	18.1	
会友化.	j £	£?	
本次分 2	<u> </u>	E C	
史友分 3	_ j G	Ef	
大友分 十二	3 8	E C	
*F4 3	31	Ευ	
光な引き	L. 86	E &	
1.依行	فنست	E 4	
1286.91	_ 3 4	11	
L:16-47 3	5.5	6.9	
1:特例 4	88	4 C	
1:06-57 3	. 18	ER	
红射兒 1	4 3	4.5_	
比例列(	0.5	. 60	
1:0FI A	_ ' 79	4.8	
<u>LB8</u> 1	٠ و ٥	60	
見を合けり	- 4	<b>4 9</b>	
U Bigi 1	9.4	0.8	
11時年日	7 2	8.8	
Priet 1 3	4.9	74	
H 以前 1 4	5:	4.8	

### [0022]

【表3】

4.777		₹ (g/Ling)							
• i =					!				ŀ
mp,'c n2;	7.	. 4	2	5	٠.	,	a.	2	2.4
	化校门:	:. /f!=	RKH4	U 750**	-FR9 7	: EECsm	185019	0.30im	L:和何 · C.19年
2 5	76%	614	264	7 9%	86%	920	£ 8 %.	27%	ā ē % 9 4 73
	中央日2	J. 18:	<b>火发</b> H1	h 100.	BMES	3.3 IErm	Water 74.5	C.500m	1594i. s. :∵am
_ a s	* * *	147	915	نۍ ه	8 L %	5 5 '3	6 5 %	5 7 Y.	7 28 80%
_	in we had	U.2227m	A.KHZ	D.400r*	奥斯朗 4	4.122-1	7.274]	f.:Sfdeen	L. Q.F. 3 : 130
15	5 B %	115	30₹	s e vo	9 2 %	5 370	FAR	883	AT SUIT
	12年4	Q. 1127 b	压化剂3	5.120ne	aced u	4.4377	±€4ï1 8	[.450m	L'RE . 4 : 4 G
5 3			4:3				155		±6% 51'0

【0023】表3から分かるように、実施例1~実施例6のもの、つまり合剤厚みが300~400μmの範囲に収まっているものは、電池を潰したときの表面温度が60℃以下に抑えられている。また、一般に放電の電流値を上げると電池容量が下がるのが通常であるが、実施例1~実施例6のもの、つまり見かけ密度が2.6~3.2g/cm3の範囲内に収まっているものは、2C容量/0.2C容量の値が80%以上とかなり高い価を示す。

【0024】上記結果より、正極合削途布厚さを300 μm以上、400μm以下で且つ正極合削の見かけの密度が2.6~3.2g/cm3にすることで、電池を圧縮した場合の電池表面温度を下げることができ、高容量で安全性の高い電池を得ることができた。

【0025】なお、比較例2と比較例13については、合剤厚みが300~400μmの範囲に収まっている

が、見かけ密度が2・6~3・2g/cm3の範囲外になっており、2C容量/0・2C容量の値が77%及び74%と小さく、電池容量が小さいため不適当である。 【0026】 :

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、Liを含む酸化物を正極活物質とする正極合剤を集電体の表面に塗布した正極板と、炭素材料からなる負極シートとを、セパレータを介して巻回した非水電解液二次電池において、前記正極合剤の厚みを300μm以上400μm以下とし、且つ、前記正極合剤の見かけの密度を2.6~3.2g/cm3とすることで、電池を圧縮して潰した場合の電池表面温度を下げることができ、高容量で安全性の高い電池を得ることができる。

### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による単1型巻回式非水電解液二次電池の断面図である。

【符号の説明】 1 正極板 2 負極シート 3 セパレータ 4 外装缶 5 リード

6 封口板 7 正極カップ兼正極端子 8 絶縁ガスケット 10 安全弁 11 負極リード板 12 絶縁底板



